カリキュラムマップの作成にあたって（昭和北中学校区：昭和北中，昭和西小，昭和北小）

昭和北中学校区　カリキュラムマップ

コミュニケーションを図り，協働する児童生徒

目指す児童生徒像

○　意欲的に学習に取り組む児童生徒→　勉強・時間
○　コミュニケーション力のある児童生徒　→　挨拶・ボランティア
○　自信をもって自律的に活動する児童生徒→そうじ・児童生徒会活動

１　「育成を目指す資質・能力」の具体の姿

	知識・技能	コミュニケーション力	自らへの自信
後期	各教科等に関する知識や技能などを確実に身に付けることができる。	・多様な価値観を受容し尊重することで，多面的・多角的に考察し，公正に判断することができる。 ・課題を設定し，その解決に向けて，協働して新たな考えを創造し，表現することができる。	・自己および自己を取りまく社会に誇りを持ち，自らの生き方について考え，行動することができる。
中期		・様々な事柄や他者と関わることで，多様な価値観を受け入れ，公正に判断することができる。 ・自分達の課題を設定し，その解決に向けて，お互いの考えや気持ちを伝え合うことで，新たな考えをつくり表現することができる。	・自分の内面を見つめ，振り返ることを通して，自分自身を知り，自信をもって行動することができる。
前期		・身の回りの事柄や他者と関わることで，自分や他者の良さや違いに気付くことができる。 ・身近な課題を設定し，その解決に向けて，人とつながり，思いを表現することができる。	・自分と身近な人々との関わりに関心をもち，自分の良さや可能性に気付くことができる。

２　カリキュラムマップ作成にあたり，発達段階ごとに大切にした視点

	大切にした視点	総合的な学習の時間，各教科等の特徴的な配列や重視した取組等
後期	協働し新たな考えを創造する	英語科では，国の特徴や日本文化を外国の人に紹介する場面設定を行うことでコミュニケーション力を高める取組を行った。
中期	多様な価値観を受容する	音楽科では郷土の音楽家について，国語科では古典について学び，道徳の学習でさらに郷土愛を高める取組を通して，自らへの自信につなげるようにした。
前期	多様な価値観を知る	生活科では，自分や友達のよさに気付き認め合い，そのよさを生かし合える場を設定し，社会科では地域との関わりをもつ活動を位置付けることにより双方向的な理解を深めていくような取組を行った。

３　本中学校区のカリキュラムマップの特徴

○本中学校区では，これまでの３年間，ペア・グループ学習の充実や異文化とのふれあい，地域の教育財の活用等を通して，「コミュニケーション能力の育成」「多様な価値観を受容する態度の涵養」「伝統と文化と郷土を尊重する態度の涵養」に取り組んできた。検証としての調査によると，「英語学力」「自尊心」「主体性・積極性」「協働する力」については有意な向上が見られた反面，「知識・技能」の定着や「対話的で深い学び」の具現化には，課題が残った。このような状況を踏まえ，本年度は「未来を切り拓く人間の育成」を目指し，児童生徒に育成すべき資質・能力を，すべての基盤となる「知識・技能」，協調性や自制心，思考力・判断力・表現力，共感力等を統合しての「コミュニケーション力」，主体性・積極性の発揮や課題発見・解決の過程を経て得られる「自らへの自信」の３点に焦点化し，「コミュニケーション力を発揮しながら主体的に生きる人間の基盤づくり」を研究テーマとしてカリキュラムマップを設定した。